

クラス	TU107	担当教員	山本 敏郎
テーマ	福祉をベースにした教育実践をつくる		
著書・論文 研究課題等	○『教育改革と21世紀の学校イメージ』いしかわ県民教育文化センター 2000年 ○『学校と教室のポリティクス』フォーラムA 2004年 ○『新しい時代の生活指導』有斐閣 2014年(予定) ○『学校教育と生活指導の創造』学文社 2014年(予定) ○「教育と福祉の間にある教師の専門性」日本生活指導学会『生活指導研究』28号 エイデル研究所 2011年。 ○「〈格差〉〈貧困〉問題と生活指導」『生活指導』2008年7月号		
<b>ゼミナール概要</b>			
キーワード：生きづらさ、貧困、虐待、生活指導、当事者性のある学び etc.			
<p><b>目的、内容、方法、授業計画等：</b></p> <p>生きづらさをかかえて苦しんでいる子どもたちをどう支援できるのか、生きる支えとなる学習をどうつくることのできるのかを研究します。</p> <p>レディメイドの教科内容や指導マニュアルを使って、「うまく」子どもに教えたり指導することが教育だとは考えていません。そんな「うまい」話はありません（と、講義で話しているのでわかりますね）。</p> <p>目の前にいる子どもたちの現実との格闘から出発する教育、彼ら・彼女らの格闘を支えることのできる教育実践について考えたいと思います。</p> <p>このゼミでは、こうした実践している全国の教師や福祉関係者たちと交流しながら（実践記録を読む、直接訪ねる、研究会に参加する、理論書を読む…）、福祉をベースにした教育実践をつくる力を身につけていきます。</p>			
<b>担当教員からのメッセージ</b>			
<p>① まず、自分が2年間何を学びたいかをじっくり考えてください。なんだかんだ言っても自分が研究したいことを見つけることができるかどうかをもっとも重要なことです。それをもって相談に来てください。卒業するころには、間違いなく、「知る—疑う（問う）—確かめる」力がみにつき、学ぶことが楽しいと感じることができるようになります（多分、おそらく……例外ありかも）。</p> <p>② 参考までに、今4年生が取り組んでいる卒業研究論文を紹介しておきます。          ○障がいを抱えた兄弟を持つ子どもへの支援に関する研究、○福祉構造改革における児童館の位置、○学校づくりと子どもの自治、○モンスターペアレントに関する研究、○学校における性同一性障害を抱えた子どもへの生活指導に関する研究、○現代の子どもたちにおける友だちづきあいに関する考察、○障害受容における価値転換説の検討、○父性神話に関する研究、○自閉症スペクトラムの子どもへの支援に関する研究、○ADHDの学力保障の研究、○いじめにおける異質排除の研究、○母子家庭の貧困に関する研究、○児童虐待における世代間連鎖に関する研究、○ソーシャルガバナンスに関する研究、○対人援助における暴力、体罰、虐待の克服に関する研究、○ギャルママの支援についての研究</p> <p>どのテーマも取り組んだ人の、どうしてもこれに自分なりの答えを出したいという「思い入れ」や問いがあります。というかそれが少しずつ見えてくるのがゼミです。じっくり自分のテーマを見つけてください。2年の間に関心が変わることはかまいません。3年生の間は「興味・関心」でかまいませんが、4年になるときは「意義と意味」に発展することを期待します。</p> <p>③ ゼミを中心に学生生活を設計してください。細かく管理することはしませんが、ゼミを軽視すると途中でサヨナラしてもらうこともあります。</p>			